



静岡県立大学国際関係学部教授
NPO法人「青少年就労支援ネットワーク静岡」
理事長

津富 宏さん

52歳。法務省の少年院の教官を経て、平成14年から静岡県立大学で勤務。専門は、犯罪学、評価研究、青少年の社会参加支援。少年院出院者の当事者支援を推進するNPO法人「セカンドチャンス!」の理事長でもある。

【連絡先】
〒420-0034 静岡県静岡市葵区常磐町2-13-4
(有限会社オックスクラブ・ドット・コム内)
TEL 054-275-2100 FAX:054-275-2102

浜松市PSCには12名のスタッフ（サポーター）が在籍。「何がこの人の強みなのか」を常に考えて伴走支援しています」と天野さん。キャリアコンサルタントの資格を持ち、就労ネットでも活動中のサポーター、伊藤正秀さんは「5年間ひきこもっていた40代の男性が、ここに通うようになって意識を変え現在では調理の仕事に就いています。このような劇的な変化を見ると、とてもうれしいですね」とのこと。サポーター同士は常に連携し、小まめに情報交換をしながら「就労」への道を探っていきます。



天野守康さん(左)と伊藤正秀さん(右)

結果がはっきりと表れています。

まず、働こう！ 現場重視の支援で、 スピーディーな社会復帰をめざす

まず、働こう！
現場重視の支援で、
スピーディーな社会復帰をめざす

2011年5月、就労支援ネットは内閣府のモデル事業「浜松市パーソナル・サポート・センター」(以

浜松では市と連携した 就労支援もスタート

「基本は、とにかくおせっかい(笑)。足が止まりがちになる若者に、手助けするから一緒にやってみようよと粘り強く声をかけます。面倒を見すぎるのもよくないので、その辺の距離の取り方がサポーターの力量でしょうか。もちろん、こちらの想いが通じる時ばかりではないですが、就職して元気にやっている若者の姿を見るのがうれしくて、それが活動のエネルギー源になっています」。



就労支援の幕開けとなる、大学生による合宿の様子

「ひきこもり」状態の人は現在70万人を超えるといわれ、その長期化や年齢上昇も問題となつていいます。「働きたい、社会に出たい」と思ながらも一歩をふみ出せない若者のために、NPO法人「青少年就労支援ネットワーク静岡(以下就労支援ネット)」では、静岡方式といわれる独自の支援活動を行い、注目を浴びています。

静岡県立大学国際関係学部教授の津富宏さんが理事長を務めるこの団体は、少年院の教官の経験をもつ津富さんをはじめ、キャリアコンサルタント、行政書士、企業経営者など様々なメンバーで構成されており、おおむね40歳以下の人を対象に、低コストで速やかに社会復帰させることを狙いとしています。「なるべく早く、職場」という社会に連れ出すことが大切。1カ月に4回のセミナーを実施し、その後すぐに就労体験をスタートさせます。実際の社会から離れた場所で自己分析や就労訓練を行っても、なかなか就職につながらないのが実情。そこで、働けば何とかかなる!という前向きな発想に切り替えました」。

世話焼きな我々のペースに巻き込まれて、意外とすんなり仕事に就く人が多くいます。2001年のスタート以来、10年間で300人以上を支援し、その約8割が現在就労中、就労体験中、または就活中とのこと。「基本は、とにかくおせっかい(笑)。足が止まりがちになる若者に、手助けするから一緒にやってみようよと粘り強く声をかけます。面倒を見すぎるのもよくないので、その辺の距離の取り方がサポーターの力量でしょうか。もちろん、こちらの想いが通じる時ばかりではないですが、就職して元気にやっている若者の姿を見るのがうれしくて、それが活動のエネルギー源になっています」。

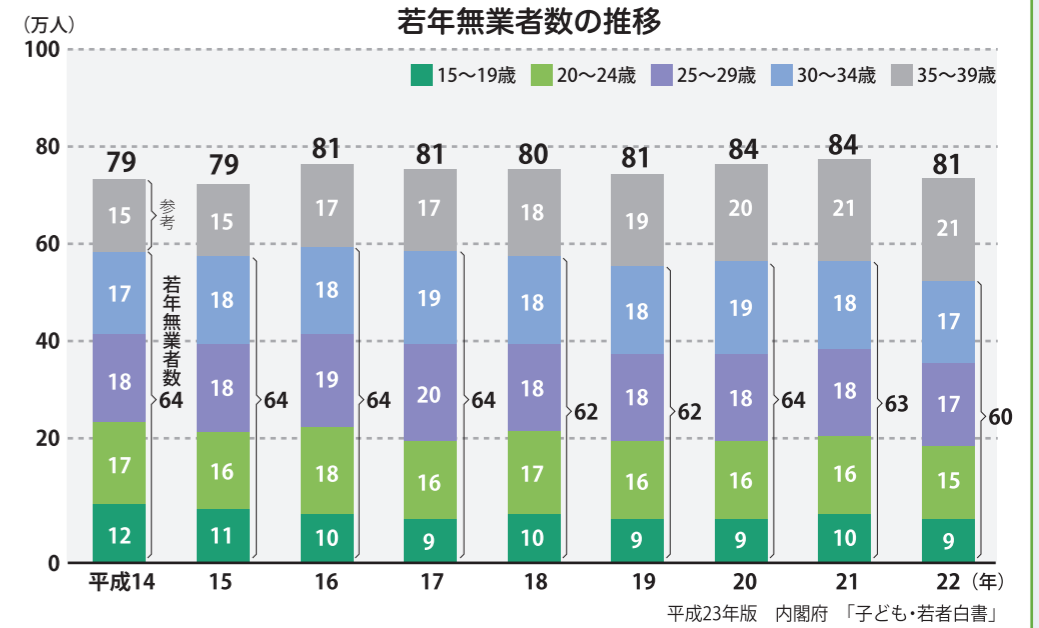
なるべく早く社会に連れ出す

者など様々なメンバーで構成されており、おおむね40歳以下の人を対象に、低コストで速やかに社会復帰させることを狙いとしています。

15歳～39歳の無業者数81万人

若年無業者数(15歳～34歳の独身者のうち、就業している人・ハローワークに通っている人・学生・家事に従事している人をのぞいた人の数)はこの10年ほど60万人を超えています。なお無業者の平均年齢は少しずつ上昇していて、15歳～39歳の無業者数は81万人に。

(注)それぞれの内訳については、千人単位を四捨五入しているため合計と合わない。



ひきこもりになったきっかけは「職場になじめなかった」が23.7%。「就職活動がうまくいかなかった」も20.3%と高く、就職のつまずきがきっかけになる場合が多いという結果が出ています。

おすすめ本

●『静岡方式で行こう!』

津富宏+NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡 著/クリエイツかもがわ

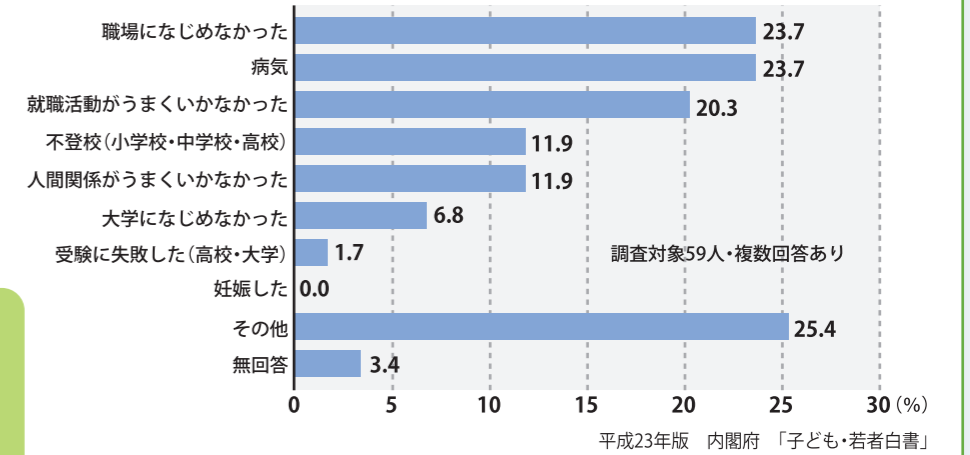
就労支援ネットが行ってきた10年間の活動をつづった本。就労に向かって一直線に進んでいく静岡方式のやり方が詳しく分かりやすく書いてあります。一步をふみ出すヒントが満載。社会復帰を果たしたOBの声も掲載されています。

●『反貧困一すべり台 社会からの脱出』

湯浅誠 著/岩波書店

「年越し派遣村」を主宰し、現在は内閣府参与として貧困問題に取り組んでいる湯浅誠氏の著書。日本の貧困問題をさまざまな角度から掘り下げています。一度転んだらすべり台のように転落してしまう現実を、読みやすく解説しています。

ひきこもり群になったきっかけ



Key Word

●ひきこもり

仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヵ月以上続けて自宅にひきこもっている状態。時々買い物などで外出することもあるという場合も「ひきこもり」に含める。内閣府の調査では平成22年2月現在、69.6万人いると推定されるものの、民間の調査では100万人以上とも言われている。

ひきこもり群の定義

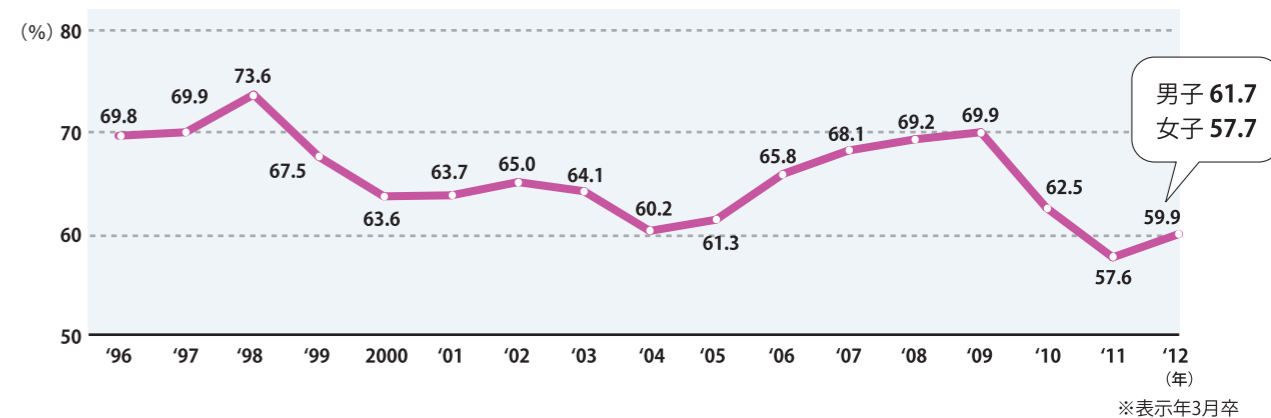
定義	全国の数(万人)	注
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	15.3	狭義のひきこもり 23.6万人
自宅からは出るが、家からは出ない	3.5	
自宅からほとんど出ない	4.7	
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	準ひきこもり46.0万人	広義のひきこもり69.6万人
計	69.6	

資料:内閣府「若者の意識に関する調査(ひきこもりに関する実態調査)」

過去2番目の低さ

大卒予定者の就職内定率59.9%

厚生労働省・文部科学省「大学等卒業予定者の就職内定状況調査」(平成23年10月1日時点)



大学卒業予定者の就職内定率は、調査を開始した1996年以降で最低だった昨年に次ぐ、過去2番目の低さです。ここ10年ほどは60%台を保っていましたが、昨年初めて50%台に下がり、新卒の就職市場がますます縮小していることを示しています。

(注)内定率とは、就職希望者に占める内定取得者の割合。各大学等において、所定の調査対象学生を抽出した後、電話・面接等の方法により、性別・就職希望の有無・内定状況につき調査。全国の大学、短期大学、高等専門学校、専修学校の中から、設置校・地域の別等を考慮して抽出した112校についての調査。調査校の内訳は、国立大学21校、公立大学3校、私立大学38校、短期大学20校、高等専門学校10校、専修学校20校。調査対象人員は、6,250人(大学、短期大学、高等専門学校併せて5,690人、専修学校560人)。(以上2012年の数字)。資料:厚生労働省・文部科学省「大学等卒業予定者の就職内定状況調査」



キャリアは頭だけで考えるものではない

「就職・転職が厳しくなった理由は明快です」と、杉山さん。「グローバル経済の進展による産業構造の変化などの影響で、雇用のニーズがどんどん変化しています。今求められているのは、変化に対応して自分で行動できる人。それがうまくできなくて、望む仕事に就けない人が増えているように感じます」。セミナー、カウンセリングなど多様な就職支援に携わってきた杉山さん、企業の採用活動や人材教育にも関わる杉山さんに、「雇用される側」「雇用する側」の双方の視点から、就職・転職市場の現状を分析していただきました。

高度成長期の価値観を手放し、自分で考え、前進する勇氣をもつて



(株)キャリア・クリエイト 代表取締役

杉山 孝さん

大学卒業後、営業職、公務員、総合人材ビジネス会社を経て2002年に人材コンサルタントとして起業。

【連絡先】

静岡県静岡市駿河区中田1-19-7
TEL 054-654-7645
FAX 054-654-7646
http://career-cr.com/

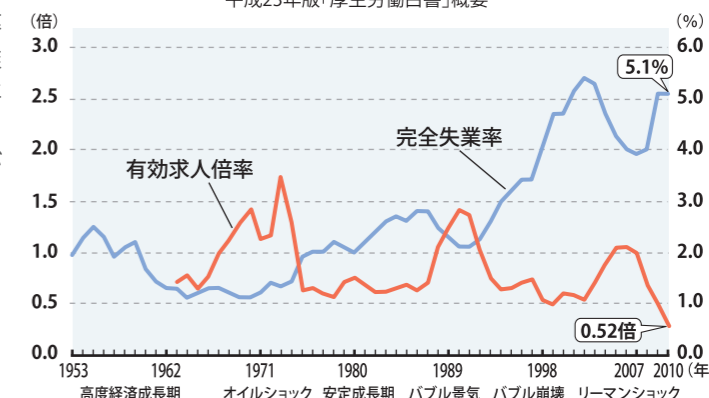


学生向け、社会人向けの様々なセミナーを開催中。

完全失業率と有効求人倍率の推移

平成23年版「厚生労働白書」概要

過去の推移を見ると、完全失業率は1970年代までは1%前後を推移していました。しかし1990年代後半から急激に上昇しています。また近年は有効求人倍率が1.0を下回っており、仕事に就きたくても就けない人が増えている現状が読み取れます。



資料:総務省統計局「労働力調査」、厚生労働省職業安定局「職業安定業務統計」

(注)有効求人倍率は、新規学卒者を除きパートタイムを含む。また年平均の数値である。

Key Word

おすすめ本

人材コンサルタント 杉山 孝さんより

『おとなの進路教室』

山田ズーニー 著 / 河出書房新社

思い通りの人生を歩める人ってそれほど多くない。というか、ほとんどの人はいろんなことに悩みながら人生を歩んでいるのでは...? 「自分らしく生きたい!」と思っているあなたに読んで欲しい本です。



●完全失業率

働く意志は持っているが、所得が伴わない状態の求職者を完全失業者、その完全失業者と就業者の合計を労働力人口といい、労働力人口に占める完全失業者の割合を示す経済指標のことを完全失業率という。総務省の労働力調査で毎月公表している。

働きたいけど仕事がない(完全失業者)

仕事がある この場合完全失業率5%



●求職者支援制度

雇用保険の受給終了者、受給資格要件を満たさなかった者、雇用保険の適用がなかった者、学卒未就職者、自営廃業者など雇用保険を受けられない求職者に対して、月10万円の職業訓練受講給付金と職業訓練を提供する制度。ハローワークが中心となり、きめ細かな就職支援で早期の就職をめざすもの。職業訓練は、地域の求人ニーズなどを踏まえて認定された民間の教育訓練機関のコースで実施される。平成23年10月から施行。

「まず、大学生に関しては、『大卒』の商品価値が以前より下がっていることに気づいて欲しいですね。以前は高卒で就職していた層が、それが難しいからとりあえず大学へという傾向が強まっています。同じことが大学院生にも起きています。こちら専門分野を極めたいというより、就職の先延ばし的な意識の人が増えています。こういう人たちは就職活動で苦戦しています」。

厳しい状況の中で前へ進むためのアドバイスとして、「新卒の場合、縁あつて採用された会社で精一杯がんばっていくうちに、自分の得意分野や適性が見えてきて、確実にキャリアを重ねている人を数多く見えています。頭の中であれこれ悩むより、まず働いて経験を積み、ということですね。自己分析や適職探しに明け暮れるのではなく、もう少し視野を広げ、何事もチャンスと受けて受け入れる度量を持つて欲しいと思います」。また親世代の中には、いまだ大企業志向、安定志向を正論とし、子どもに押し付ける人が少なくない、とのこと。「もはやそんな時代ではありません。親の価値観で、子どもを迷わせるのはやめたほうがいいでしょう」。

雇用する側が求めているものを推し量る

また、転職、再就職希望者の場合、焦りから「雇ってくれるならなん

でもやります」と、企業に媚びてしまう傾向が強いとのこと。「リストラや失業で落ち込んでしまう気持ちはよくわかりますが、自分のことばかりで企業の意向を考えていない。この会社はどういう理由でどんな人が欲しいのかをよく考え、自分はこの会社でこんなメリットを提供できます」と、アピールして欲しいです」。

これまでにやってきた仕事の内容、成果を整理し、自分にはこれができる!と自己肯定する力を持つべきだと言います。

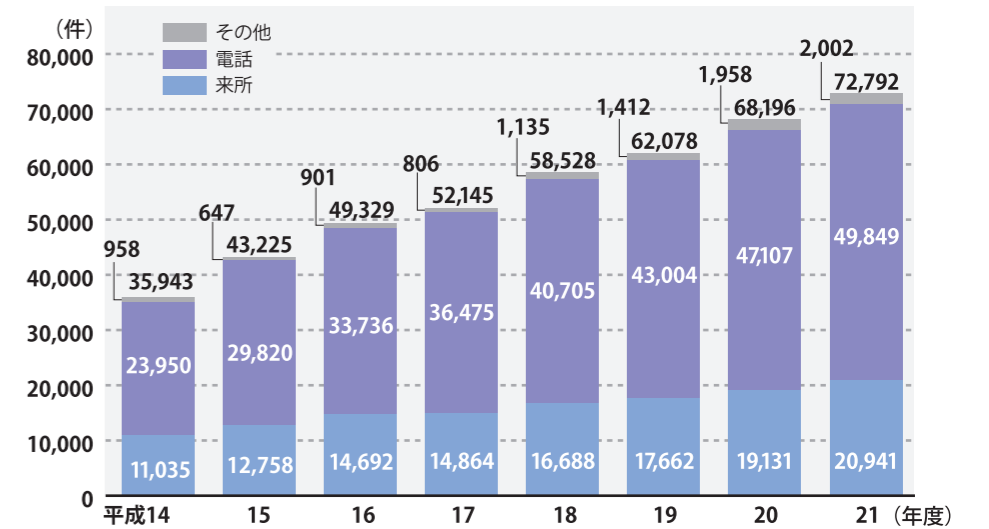
かつてのように、与えられた仕事を真面目にこなしていれば評価をされる時代ではありません。だからこそ、自分を冷静に見つめ、進む道を決断する覚悟と勇氣が必要だと杉山さんは語ります。

「例えば、民間事業者が紹介した就職件数はここ10年、増加を続けています。厳しいとはいえ、企業の求人ニーズが衰えているわけではありません。同じ求人案件に応募するにしても、『会社に勤めて給与をもらう』という組織依存の意識から、『仕事をして報酬を得る』という主体性のある意識でアプローチすることで、結果は大きく変わるはずですよ」。

配偶者からの暴力の相談 約7万件

「配偶者暴力相談支援センターにおける配偶者からの暴力が関係する相談件数」

配偶者暴力相談支援センターへの相談件数は、年々増加しています。平成21年度は平成14年度の倍以上の件数になっています。平成23年11月現在、配偶者暴力相談支援センターの機能を果たす施設は全国に209施設ありますが、静岡県には静岡県女性相談センターひとつしかありません。



内閣府男女共同参画局 「男女共同参画社会の実現を目指して」



Key Word

おすすめ本

しあわせプロジェクト・みんなの一步 代表 根上茂美さんより

『女性のメンタルヘルスの地平』

河野貴代美 著/コモンズ

女性の病気とジェンダーに深い関わりがあること、整備されたはずの法に隠された女性の生きづらさがあることがよく分かりました。女性の問題、メンタルケアの拠点として女性センターの必要性が、再認識できた1冊です。

『僕はそして僕たちはどう生きるか』

梨木香歩 著/理論社

世間の大勢に流されて生きるのか、群から離れて考えを深めるのか。足を踏まれた人、ドアを開け出された人はどう異議申し立てをするのか。青春小説ではありますが、実は、女性の問題との共通項がたくさん含まれています。

●フェミニストカウンセリング

女性のための、女性によるカウンセリング。伝統的なカウンセリングとは違い、「女性の生き難さは個人の問題ではなく、社会の問題である」というフェミニズムの視点をもって、それぞれの女性の問題解決をサポートするのが特徴。

●ウーマンリブ

1960年代後半にアメリカ合衆国で起こり、その後世界的に広がった女性自身の手による女性解放運動のこと。女性に対する差別をなくし、抑圧からの開放をめざす。性差に対する意識変革を重視する点で、それまでの権利獲得中心の婦人運動と区別される。日本でも1970年に第1回ウーマンリブ大会が開催され、男女雇用機会均等法の制定に大きな役割を果たすなどした。

●DV

ドメスティックバイオレンス。家庭内における暴力行為。主に夫婦間、特に、配偶者や恋人など近い関係にある相手からの暴力。身体的な暴力行為のほか、精神的暴力(監視、暴言、無視など)、性的暴力(性交の強要、妊娠・避妊に協力しないなど)、経済的暴力(無計画な借金、お金を使わせないなど)、社会的隔離(外出の妨害、実家や友人からの隔離など)も含む。

●デートDV

同棲していない恋人同士での身体的、性的、心理的暴力のこと。携帯電話のチェックなど相手を束縛する行為、無理やりおごらせるなど経済的自由を損なう行為も含む。

●ジェンダー

社会的、文化的に形成される男女の差異。男らしさ、女らしさといった言葉で表現されるもので、生物上の雌雄を示すセックスと区別される。



法や制度は整った。でも本当に男女共同参画は実現しているのか？

1970年代、ウーマンリブ運動が盛り上がった頃、思春期真っただ中にいた根上さん。学生時代から女性をめぐる問題には関心があり、女性の学の本もよく読んでいました。結婚してからは、世間の風潮に合わせて、良い妻、良い母を心がける日々でした。今から20年前、夫の転勤で千葉県に移り住み、それまでの知識しかなかった女性学系の講座「自分を知る講座」を受講したときのことでした。「講座の心理テストで、仕事人間の夫と自分の間に

ドア3枚隔てたほどの遠い距離を感じ、何かがおかしい。私の人生はこのままでいいのか。そんな暗澹たる思いが胸に湧いてきました。その疑問を抱えたまま再び沼津に住むことになり、地域の男女共同参画事業、条例づくりなどにも関わるようになりました。「以前に比べたら、男女共同参画の法や制度は整ってきました。けれども現実問題として、女性は仕事で一人前の能力を求められ、さらに女性らしい気遣いも求められている。それなのに、不安定な雇用で男性より低い収入に甘んじているケースが多い。議会など政策決定の場に女性が進出するだけでなく、一人ひとりの

暮らしに根ざす部分で、男女共同参画を促す働きかけが必要なのではないか。本当に男女は平等になっていっているのか、いつも考えていました」。

生きづらさの原因が「ジェンダー」だと気づく

そして3年前、あざれあのフェミニストカウンセリングの講座に参加。「何かがおかしい」「どうして女性が生きづらいんだろう」と感じていた原因が、法や制度だけでは解消されない「ジェンダー」にあったと気づきます。「まさに目から鱗でした。それがわかって生きるのが楽になったのと同時に、同じ悩みを抱えている女性たちに伝えたいという思いが強くなりました」。

そして2011年、グラウンドワーク三島(※)が開催したインターネット研修に参加。「女性のための語り合いグループやメンタルケア講座企画運営をするプラン」が採択され、起業支援が受けられることになりました。「県内では、沼津市以外に男女共同参画センターを持つ自治体がありません。女性学や女性のためのメンタルヘルスケアを学ぶ機会は、県中西部に比べて圧倒的に少ないのが現状。関心はあっても、近くで学ぶ機会も、相談する場もないという声も聞かれます。昨年、東部で初めてフェミニストカウンセ

リング系の講座「自己尊重トレーニング「大切な私」に出会う講座」を行ったところ、反響が大きく、その必要性、手ごたえを感じています」。

当事者同士が語り合う、自助グループの場を広げたい

2012年にスタートした「しあわせプロジェクト・みんなの一步」では、講義と、参加者各々が女性の問題を皆で語り合う形式で、女性のメンタルヘルスケアをサポートしていく予定です。「離婚、うつ、DV被害、家庭や職場での悩みなど、個人的な要素が強い問題を当事者同士が集まって学び、語り合う場、自助グループという形にこだわりたい。その問題がジェンダーに関わるものであれば、それはもう個人の問題ではなく、社会の問題であることに気づいてほしいのです」。根上さん自身、夫と別居中で、離婚については渦中の人。「皆と意見を共有しながら、とりあえず一歩進んでみよう、そんな女性の集まる場を作りたい。今ここにやる気持ちになれなくても、辛いと思ったときに思い出し、足を運んでもらえたらいい。出たり入ったり、つながったり切れたり、行きつ戻りつする人を迎え入れる場となりたいのです」。

(※)グラウンドワーク三島 三島市を中心に人材育成や環境改善活動に取り組むNPO法人。

ジェンダーによる差別は、個人から社会の問題へだからこそ、共に前進したい



アミーぬまづ代表 しあわせプロジェクト・みんなの一步 代表 根上茂美さん

57歳。沼津市在住。

【連絡先】
TEL 080-5160-2624
nekoakubi28@yahoo.co.jp
●活動場所／東部パレット他
●費用／語り合いのグループワーク 1回500円程度



「自己尊重トレーニング「大切な私」に出会う講座」にて